

2007年度国際シンポジウム

アジアの地球温暖化問題の現状と展望



日本語版

目 次

◆開会の挨拶

浜中 裕徳 (財)地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長	1
齋藤 富雄 兵庫県副知事	3

◆趣旨説明

鈴木 胖 (財)地球環境戦略研究機関 (IGES) 関西研究センター所長	5
--------------------------------------	---

◆基調講演 1

「中国における気候変動対応：直近の政策と取り組み」	19
チャン・ウァン	
清華大学環境・科学・技術学部准教授兼国際環境政策研究センター所長	

◆基調講演 2

「気候変動における削減と適応：インドからの視点」	35
シヴァナッパン・クマール	
アジア工科大学環境・資源・開発学部学部長	

◆パネルディスカッション

「地球温暖化対策におけるアジアの取り組みと展望」

[コーディネーター]

鈴木 胖

[パネリスト]

チャン・ウァン

シヴァナッパン・クマール

菅野 伸和 松下電器産業株式会社 環境本部 環境渉外・企画担当部長

浜中 裕徳

プレゼンテーション

浜中 裕徳	57
-------	----

菅野 伸和	63
-------	----

ディスカッション	83
----------	----

開会挨拶

(財)地球環境戦略研究機関(IGES)

理事長 浜中 裕徳

ただいまご紹介にあずかりました、地球環境戦略研究機関理事長の浜中でございます。

ご来賓、内外のパネリストの方々、ならびにご来場の皆様、本日は何かとご多忙の中、IGES 関西研究センター2007年度国際シンポジウムにお越しいただきましたこと、主催者を代表しまして、心よりお礼申し上げます。

私ども IGES は、1997年の12月に、各国の政府、国際機関等から設立憲章に署名をいただきました。これはちょうど国際気候変動枠組み条約第3回締約国会議 COP3が京都で開催され、京都議定書が採択されたときであります。その翌年、1998年の3月に IGES が設立され、本年でちょうど10年の節目を迎えることになります。

IGES は設立以来、アジア太平洋の持続可能な開発をターゲットに、3年間をサイクルとする戦略研究を行ってまいりました。また、2001年には兵庫県のご支援を得て、関西研究センターを開設する等、内外に事務所を設け、組織体制の充実にも努めてきたところです。

同時に、研究成果を政策形成過程に反映させるため、アジア太平洋環境会議・エコアジアにおける報告、国際気候変動枠組み条約締約国会議におけるサイドイベントの開催、アジア3R推進会議への支援といった、様々な努力を重ねてまいりました。

そして、昨年4月からは第4期戦略研究プロジェクトとして、7つのプロジェクトを開始し、そのうち「ビジネスと環境」プロジェクトについては、関西研究センターにおいて実施しているところです。

この10年間、アジア地域の変化には目覚ましいものがあり、経済発展、人口増加、これらに伴う環境負荷の増大については、ご周知のとおりかと存じます。アジア地域は地球環境問題の発生源となるおそれがあるとともに、またその影響を最も深刻に被る地域でもあります。

一方、アジアにおける環境問題への対策も具体化し、各国のみならず、様々な国際的な取り組みが講じられているところです。さらに、今後はこの地域の行政、研究機関、NGO、企業、そして市民が、地球環境問題を解決する最も強力な主体となるものと期待されます。IGES は、アジア地域のこれらの主体と連携・協力を図りながら、課題解決型の政策研究に一層努めてまいりたいと考えております。

本日のシンポジウムは、IGES 設立10周年記念ということだけではなく、5月に予定されておりますG8環境大臣会合の開催記念リレーシンポジウムと位置づけていただいているとのことで、誠に光栄に存じます。

幸い、エネルギー・資源分野の権威であります兵庫県立大学の鈴木副学長に関西研究センターの所長を務めていただいておりますので、その鈴木先生にシンポジウム全体のコーディネートをお願いしております。

その鈴木先生による趣旨説明に続きまして、アジアを代表する二つの大国である中国とインドの地球温暖化問題への取り組み状況について、この分野で深い見識をお持ちのお二人に基調講演をいただきたいと思っております。

それを踏まえて、パネルディスカッションを行い、地球温暖化対策におけるアジアの取り組みと展望につ

いて、活発な議論が展開されるものと期待します。

最後になりましたが、ご来賓、パネリストの方々をはじめ、本日も来場の皆様のご健勝とご発展を心よりお祈りし、誠に簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

来賓挨拶

兵庫県副知事
齋藤 富雄

ただ今ご紹介に預かりました、兵庫県副知事の齋藤でございます。

本日は、IGES 関西研究センター2007年度国際シンポジウムが、兵庫県において盛大に開催されますことを、地元を代表して歓迎申し上げます。また、IGES が設立10周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

最近では、環境問題、とりわけ地球環境問題がメディアに登場しない日はない、といえるのではないのでしょうか。政策担当者や学識者、NPO など、環境に携わる方々だけでなく、広く一般の方々も、環境への意識を自然に持つようになってきているのではないか、と思われます。本県では、IGES 関西研究センターをはじめとする、環境問題に関する研究機関を活用しながら、県民への普及啓発のみならず、全国、そして世界へ向けた発信に努めております。

今年5月24日から26日の間、ここ兵庫・神戸において、環境大臣会合が開催されます。本県が取り組んでいるコウノトリ野生復帰をはじめとする自然再生プロジェクトや、地元主催の関連事業として「環境フェア」等、企業参画を得て積極的に展開していくこととしています。

また、環境大臣会合へ向けての気運醸成を図ることを目的に、地元関連事業の一つとして、環境大臣会合開催記念リレーシンポジウムを開催しているところであります。今回のシンポジウムも、その一つと位置づけております。

本年7月の洞爺湖サミットを前に、環境大臣会合では重要案件について討議が行われるわけですが、中でも地球温暖化問題が話題の中心になるのではないかと報じられているところです。その意味で、今回のシンポジウムが、「アジアの地球温暖化問題の現状と展望」をテーマに掲げておられるのは、誠に時宜を得たものと思われます。

本日ご来場の皆様におかれましては、このシンポジウムへのご参加を契機に、地球環境問題への関心をより高め、それぞれのお立場で、環境に配慮した行動をより多く実践いただくとともに、環境大臣会合へ向け、今後開催されますリレーシンポジウムにもご注目いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、このシンポジウムが実り多いものとなり、その成果がこの兵庫の地から、全国、そして世界へ向けた貢献につながりますよう、また本日ご来場の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。